

878 岡野敬次郎先生への弔辞（馬場愿治）

〔『法学新報』第36卷1（408）号 大正15年1月1日〕

嗚呼我カ中央大学学長岡野先生遽ニ館ヲ捐ツ洵ニ痛恨哀悼ノ至
リニ堪ヘス先生ハ現代法界ノ木枿、儒林ノ耆宿、其識見ノ高邁
ナル其性格ノ敦厚ナル拳世皆仰テ以テ一代ノ儀表ト為ス曩者明
治二十年初メテ教鞭ヲ我カ中央大学ノ前身タル英吉利法律学校
ニ執リ其蘊蓄ヲ傾ケテ之ヲ諸生ニ授ケ三十九年理事ノ任ニ就キ

越テ大正六年衆望ヲ以テ学長ノ印ヲ佩ヒ營營經紀倦ム所ヲ知ラ
ス門下ノ多士各々其学ヲ所ヲ以テ之ヲ世務ニ施シ朝ニ野ニ交々
邦家ノ奎運ニ貢献シ而シテ中央大学今日ノ隆昌ヲ致シタルモノ
亦先生ノ力実ニ多キニ居ル先生学界ノ重鎮ヲ以テ累リニ行政部
ノ要地ヲ占メ屢々聖鑑ヲ蒙リテ補弼ノ重任ヲ拜シ近クハ枢府ニ
入りテ密勿ノ議ニ参シ世人ヲ見テ其成績ヲ想望ス不幸ニシテ
天之二年ヲ假サス今ヤ幽冥境ヲ異ニシ英魂呼ヘトモ答ヘス悲哉
飜テ思フ天寿固ト命アリ逝者復タ蘇スヘカラス我儕唯当ニ先生
ノ遺意ヲ体シ相偕ニ力ヲ戮セテ中央大学ヲ経紀シ其本来ノ使命
ヲ完フシ以テ先生在天ノ英靈ニ酬ユヘキノミ茲ニ告別ニ臨ミ恭
シク蕪辞ヲ捧ケテ哀悼ノ至誠ヲ効シ併セテ同人ノ決意ヲ靈前ニ
誓フ英靈庶幾クハ夫レ之ヲ鑑ミタマヘ

大正十四年十二月二十六日

中央大学理事 馬場愿治